



**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 2019年度（2020年3月期） 決算説明会

2020年4月24日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
mirror_mod.use_x = True
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = True
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
= "Selected" + str(modifier)
mirror_ob.select = 0
mirror_ob.select = 0
```

## 2019年度決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## FY19業績ハイライト

- 半導体の高性能化や信頼性保証強化ニーズの高まりに呼応し、ハイエンドSoC向けで旺盛なテスト需要が継続。メモリについても年度後半より復調
- 新規事業として位置付けているシステムレベル・テスト事業の受注が順調に拡大
- 一部の半導体で在庫調整が長引く中でも、過去最高の受注高を2年連続で更新
- 新型コロナウイルスの感染拡大により年度末から事業活動に制約が生じているが、社内外の努力により売上計画を超過
- FY18からスタートした中期経営計画における計数目標を2年連続で達成

### ○ 2019年度業績ハイライト

- FY19の業績ハイライトです。
- 半導体の高性能化や信頼性保証強化ニーズの高まりに呼応し、5G用などハイエンドSoC向けで旺盛なテスト需要がFY19も継続しました。
- メモリ向けについても、年度後半から復調しています。
- また新規事業として位置付けているシステムレベル・テスト事業で、受注が順調に拡大しました。
- 2018年後半から半導体市場ではメモリや車載関係で在庫調整が継続してきた中で、当社としては2年連続で年度受注高記録を更新することができました。
- 新型コロナウイルスの感染拡大は当社においても事業活動の制約となっていますが、社内外の努力により、1月に公表した売上予想を超過することができました。
- FY19は当社の中計2年目となりますが、中計で掲げた目標値を2年連続で達成しています。

## FY19業績概要

(億円)

	FY18		FY19		
	実績	1月時点 予想	実績	前年度比	
				増減額	増減率
受注高	2,752	2,700	2,878	+127	+4.6%
売上高	2,825	2,700	2,759	-66	-2.3%
営業利益	647	560	587	-60	-9.2%
営業利益率	22.9%	20.7%	21.3%	-1.6pts	
税引前利益	662	567	586	-76	-11.5%
当期利益	570	490	535	-35	-6.1%
当期利益率	20.2%	18.1%	19.4%	-0.8pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	-30				
事業譲受、M&Aに伴う受注残の増加	+24		+42		
受注残	749	749	910	+161	+21.6%
為替レート	1米ドル	110円	108円	109円	1円 円高
	1ユーロ	129円	121円	121円	8円 円高
1株当たり配当額（年間）	92円	75円	82円	-10円	

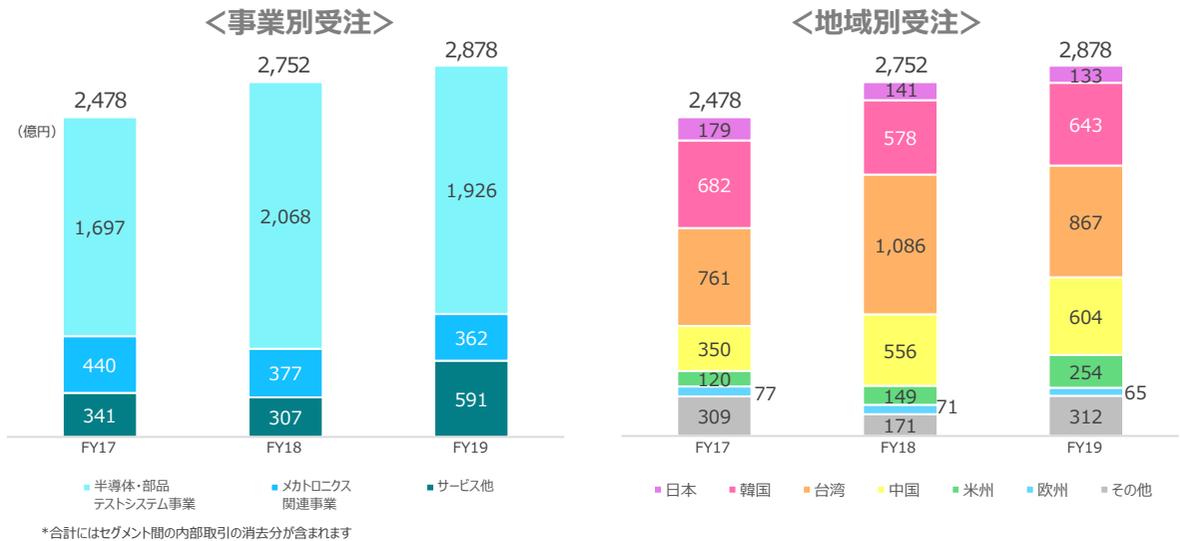
[配当性向: 30%]

[配当性向: 30%]

### ○ 2019年度業績概要

- 受注高 前年度比 4.6%増 2,878億円
- 売上高 前年度比 2.3%減 2,759億円
- 営業利益 前年度比 9.2%減 587億円
- 当期利益 前年度比 6.1%減 535億円
- 受注の伸びにより、受注残は前年度比 161億円増加の 910億円
- 期末配当は、1月発表の予想比 7円増となる、中間配当と同額の 41円です。年間配当は 82円となります。
- 表に掲げていませんが、ROEは 24.9%でした。

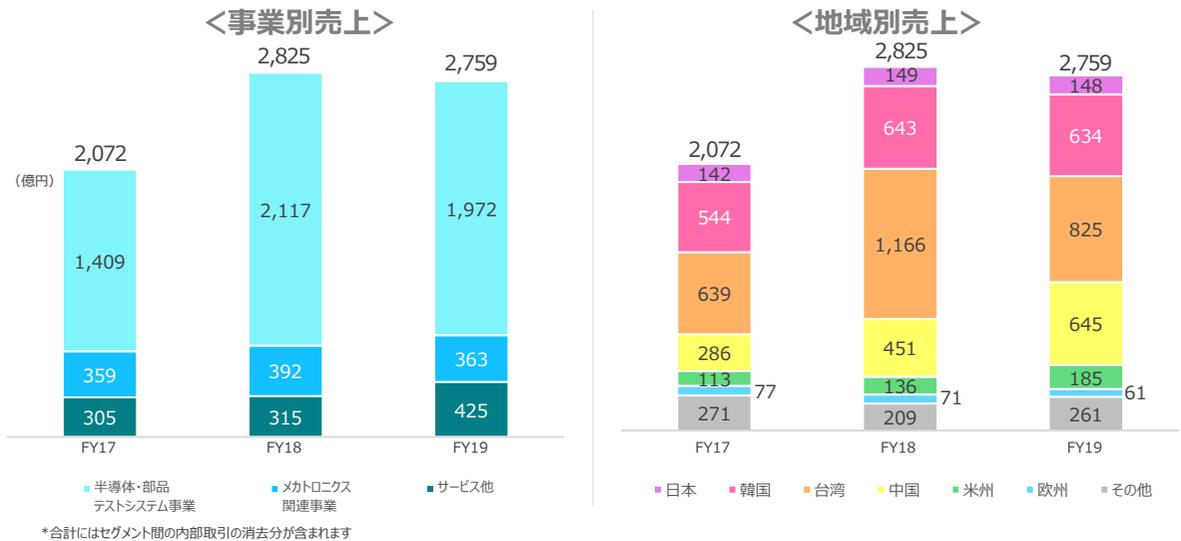
## FY19受注実績 年度比較



### ○ 2019年度の受注高実績

- ・ 事業別、地域別の年度受注実績はご覧の通りです。
- ・ ディスプレイ関連で受注が減少したことで、テスト全体の受注は前年度比減少しましたが、引き続き良好な水準となりました。
- ・ 加えて、システムレベル・テストの伸びにより、全体では受注が増加しています。

## FY19売上実績 年度比較



### ○ 2019年度の売上高実績

- こちらは年度売上実績です。
- 地域別では、ミックスが多少変化しました。
- ディ스플레이や、メモリ市場の軟化を受けて、台湾での売上が下がりました。一方で、半導体産業の立ち上げに力を入れている中国で売上が伸びています。

## 四半期業績推移

(億円)

	FY18				FY19							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前期比		前年同期比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	706	762	627	657	659	583	729	907	+178	+24.4%	+251	+38.2%
売上高	709	727	749	640	662	716	699	682	-17	-2.4%	+43	+6.7%
売上総利益	382	389	425	344	394	410	394	367	-27	-6.8%	+23	+6.7%
売上総利益率	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	-2.6pts		+0.0pts	
営業利益	158	180	207	102	152	177	142	116	-27	-18.8%	+14	+13.5%
営業利益率	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	-3.4pts		+1.1pts	
税引前四半期利益	165	186	206	105	149	184	145	108	-37	-25.3%	+3	+3.1%
四半期利益	139	162	179	90	121	147	119	148	+29	+24.1%	+59	+65.7%
四半期利益率	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	4.6pts		7.7pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	-30											
事業譲受、M&Aに伴う 受注残の増加				+24				+42				
受注残	795	830	708	749	746	613	643	910	+267	+41.5%	+161	+21.6%
為替レート	1米ドル	108円	111円	113円	111円	108円	108円	110円	2円 円安		1円 円高	
	1ユーロ	131円	129円	130円	126円	125円	121円	121円	2円 円安		5円 円高	

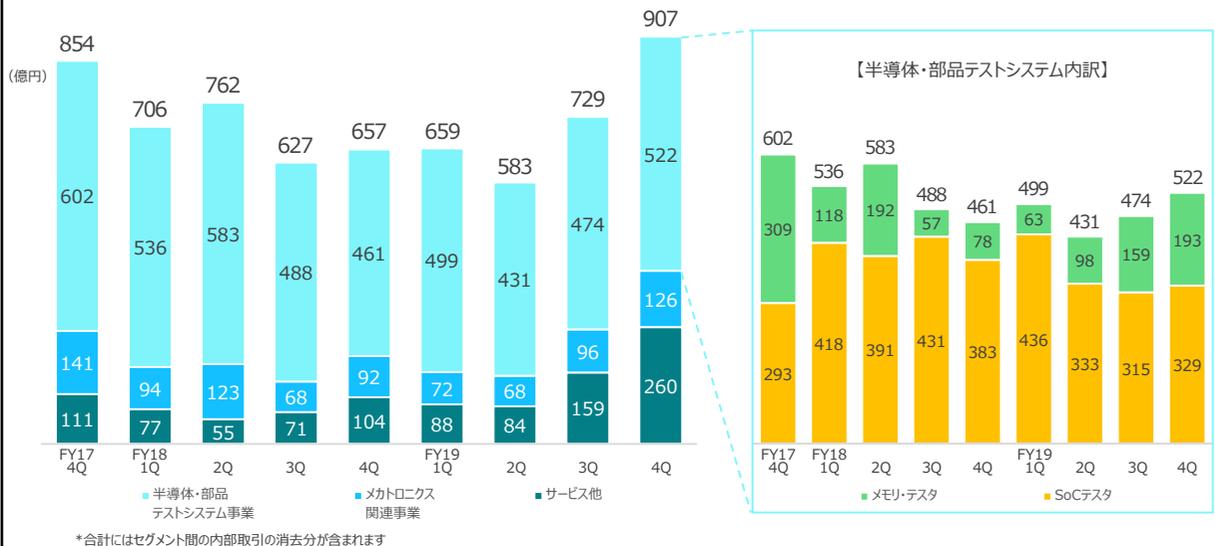
8 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

### ○ 2019年度第4四半期の業績概要

- 3か月前は、4Qの受注は3Q並みと予想していましたが、メモリ関連とシステムレベル・テストの伸び、および1月末に買収した米Essai社の連結開始などで、過去最高の四半期受注高となりました。
- 税金費用に将来の税金費用の減税効果を見込んだ繰延税金資産の計上をした結果、税引前四半期利益よりも四半期利益が大きくなっています。

## 四半期受注高 事業セグメント別



9 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 2019年度第4四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 10.1%増 522億円
- SoCテストは329億円と前期並みとなりました。モバイル関係とHPC（ハイ・パフォーマンス・コンピューティング）関係の受注が堅調でした。
- メモリ・テストは底堅いDRAM受注に加え、フラッシュメモリ向けの投資が一段伸長し 193億円の受注となりました。

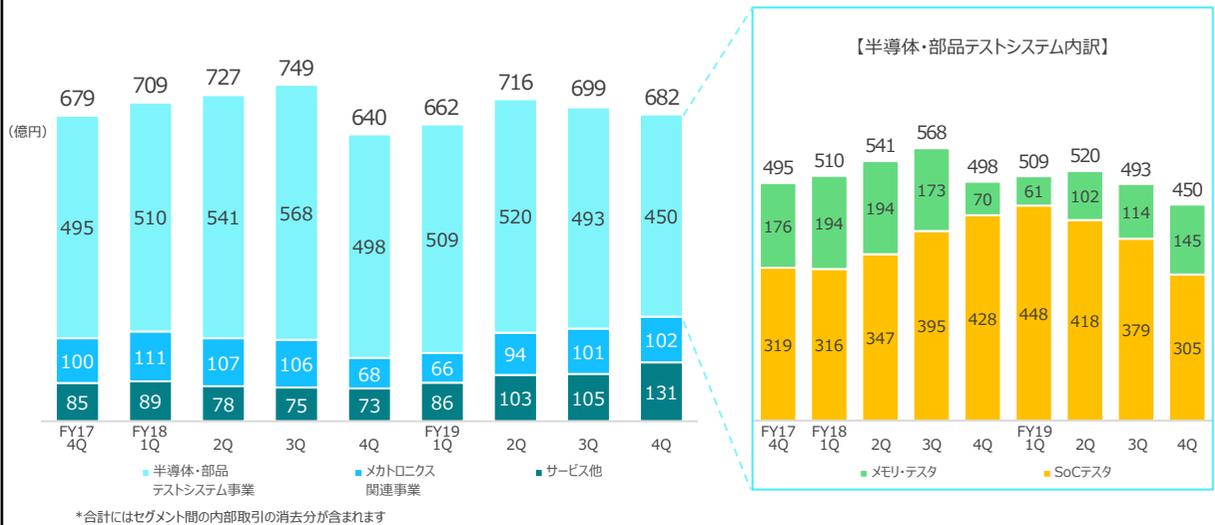
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 31.6%増 126億円
- メモリ・テスト受注の想定以上の伸びと連動しました。

○ サービス他

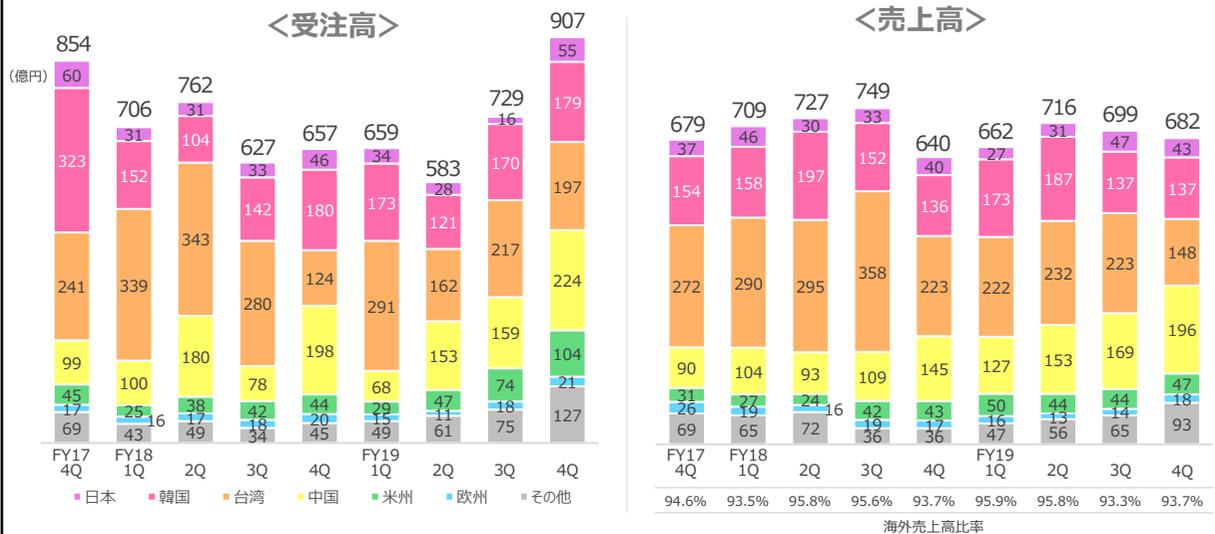
- 前期比 63.3%増 260億円
- システムレベル・テスト関連の好調な受注に加え、保守契約の受注も伸びました。

## 四半期売上高 事業セグメント別



- 2019年度第4四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前期比 8.8%減 450億円
  - ・ SoCテストは、計画線の着地でした。
  - ・ メモリ・テストはサーバー向けの引き合いが強まり、3か月前の予想を超過しています。
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前期並み 102億円
- サービス他
  - ・ 当セグメントでは、第4四半期の途中から、Essai社の業績を連結開始しています。
  - ・ そのEssai社のビジネスであるハイエンドICソケットが、HPC向けで好調でした。

## 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



### ○ 2019年度第4四半期の地域別の動向

- 中国が受注、売上ともに最大の仕向地になりました。

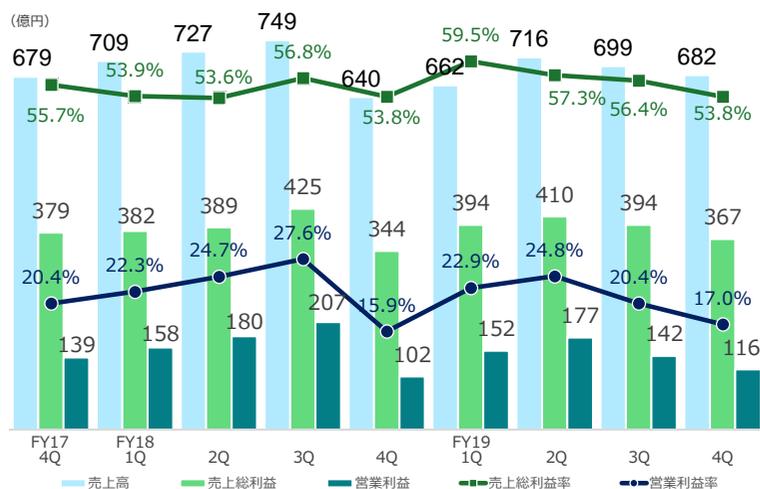
### ○ 地域別受注高

- 中国  
堅調なメモリ受注が続いていることに加え、モバイル向けの受注が伸びました。
- 米州、その他地域  
米国と東南アジアで、ハイエンドSoC関連の受注が増加しました。
- 日本  
フラッシュ・メモリ向けの受注が伸びました。

### ○ 地域別売上高

- 台湾、中国  
モバイル関連の売上が台湾で減少し、中国では増加しました。

## 売上高/売上総利益/営業利益



(億円)

	FY18	FY19
売上高	2,825	2,759
売上総利益	1,540	1,565
売上総利益率	54.5%	56.7%
販管費等	893	978
営業利益	647	587
営業利益率	22.9%	21.3%

### ○ 2019年度第4四半期の営業利益

- 売上総利益率 53.8%  
1月に買収したEssai社の売上が進捗する一方で、引き継いだ受注に関連する無形資産の償却費を計上しております。この影響を除けば55%以上を維持できています。
- 販管費等 251億円
- 営業利益 116億円
- 営業利益率 17.0%

### ○ 2019年度通期の営業利益

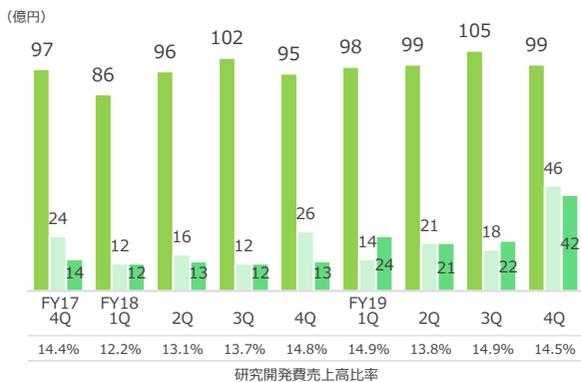
- 通期営業利益 前年度比 9.2%減 587億円
- 将来の成長基盤強化として研究開発やサポート人員のリソース強化を行ったことで、販管費が増加しました。
- なおFY18の営業利益には事業所の売却益や年金制度変更に伴う一過性の利益 約35億円が含まれています。  
一時的な損益影響を控除した、いわゆるコア営業利益率ベースでは、18年度 21.6%に対し、今期は 21.3%と、ほぼ同等の水準となります。

## 投資等/キャッシュ・フロー

### <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

	FY18	FY19
研究開発費	379	401
売上高比率	13.4%	14.5%
設備投資	66	99
減価償却費	50	109



### <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

	FY18	FY19
営業キャッシュ・フロー	448	665
投資キャッシュ・フロー	▲159	▲388
フリー・キャッシュ・フロー	289	277



\*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

### ○ 2019年度第4四半期の研究開発費等

- 研究開発費 99億円
- 研究開発費売上高比率 14.5%
- 設備投資 46億円  
研究開発や生産の業務効率向上用の設備投資が、年度末に集中しました。
- 減価償却費 42億円  
FY19からIFRSの新リース会計基準を適用したことに加え、M&A実施に伴って一時的に無形資産償却費が増えたものです。

### ○ 2019年度第4四半期のキャッシュ・フローの状況

- フリー・キャッシュ・フロー -207億円
- Essai社のM&Aにより、4Qは投資キャッシュフロー支出が大きくなり、フリー・キャッシュ・フローがマイナスとなりました。

# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



### ○ 2020年3月末時点のバランス・シート

- 総資産 3,558億円
- 現金および現金同等物 前年度末比78億円増 1,277億円
- 親会社の所有者に帰属する持分 2,315億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前年度末比0.1ポイント減 65.1%
- 事業環境は不透明な方向に向かいつつありますが、このバランスシートからわかるとおり、財務体質の健全性は維持できています。



## 2020年度事業見通しと中期経営計画の進捗

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 当社の中長期経営方針

## 「グランドデザイン」(長期経営方針・FY18-27)

### <長期経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

### <コスト、利益構造>

- 売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮

	3,000億円レベルでの コスト構造モデル
売上高	3,000億円
売上原価率	46%
売上高販管費比率	32%
(うちR&D費比率)	13%
営業利益率	22%

## 中期経営計画(FY18-20)

- 製品需要の年ごとのアップダウンは避けられないため、3カ年平均で数値目標を設定
- 新たなテスト需要に卓越したソリューションを提供し、売上高と市場シェアを伸長
- 中長期の売上成長に向け、積極的なR&D投資・M&A
- 半期連結配当性向30%を基本としつつ、成長投資見通しを勘案した上で総株主還元を機動的に検討

	中期経営計画 (FY18-20 平均)	
	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

## ○ 当社の経営方針

- まずは当社の中長期事業方針に関してです。
- 2018年4月、当社は中長期的にどうありたいか、何をなすべきかを定めた、FY18を起点とする10年間の中長期経営方針と3年間の中期経営計画を策定し、全社一丸となり取り組んでいます。
- FY20はこの中期経営計画の3年目、最終年度を迎えます。

## 中期経営計画の進捗

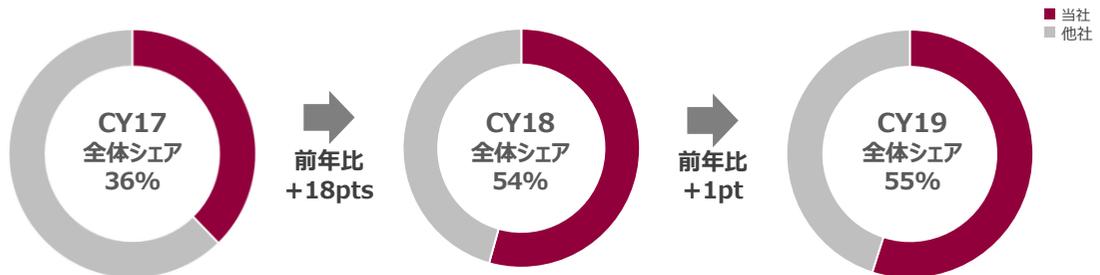
	FY15-17 平均	中期経営計画 (FY18-FY20 平均)		FY18実績	FY19実績	FY18-19 平均実績
		保守的シナリオ	ベース・シナリオ			
売上高	1,751億円	2,300億円	<b>2,500億円</b>	2,825億円	2,759億円	<b>2,792億円</b>
営業利益率	9%	15%	<b>17%</b>	22.9%	21.3%	<b>22.1%</b>
ROE	12%	15%	<b>18%</b>	35.3%	24.9%	<b>30.1%</b>
1株当たり当期利益 (EPS)	74円	135円	<b>170円</b>	302円	270円	<b>286円</b>

- この2年はテスト市場拡大と市場シェア上昇により、ベース・シナリオで掲げた全てのKPIで目標値を超過
- これまでの進捗は良好であるものの、新型コロナウイルスの拡大による先行き不透明感が強いいため、当初の目標値を据え置く

### ○ 中期経営計画の2年目進捗

- 中期経営計画のこれまでの進捗を整理します。
- スライド右端に整理したように、この2年はテスト市場拡大と市場シェア上昇により、ベース・シナリオで掲げた全てのKPIで、目標値を超過しています。計画策定時にはハードルの高い数値を掲げたつもりです。結果としては、この2年間は良好な進捗を残すことができました。
- 本来であればFY20はもっと高みを目指したいところではありますが、新型コロナウイルスがどこまで、そしていつまで世界経済を停滞させるのか、極めて不透明であるため、中期経営計画としては当初の目標値を据え置き、まずはその目標達成を目指します。

## 市場シェアの状況



	市場規模	当社シェア		市場規模	当社シェア		市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$2,200M	30%	SoCテスト	約\$2,550M	52%	SoCテスト	約\$2,700M	55%
メモリ・テスト	約750M	57%	メモリ・テスト	約1,150M	58%	メモリ・テスト	約650M	55%

Source: Advantest

### ○ 当社の市場シェアの状況

- 当社のグランドデザインや中期経営計画では、市場シェアを毎年1%ずつ引き上げるという目標を立てました。
- CY17実績で36%だったシェアを、CY27までに46%まで高めるという目標を定めました。
- CY19はCY18に大きく伸ばしたシェアから、さらに1ポイント、シェアを伸ばすことができました。
- SoCテストは、5G向けで半導体開発・量産投資が伸びていく中、しっかり顧客のニーズを取り込んだことで、シェアを一段伸ばすことができました。大手顧客の投資動向でシェアは大きく変動することがあり得るわけですが、直近2年で大きな改善を実現できました。
- メモリ・テスト市場は、メモリ市況がスローダウンする中、顧客ミックス上、前年より不利な展開を迎えました。その結果CY19の市場シェアは下がっていますが、引き続き市場の過半を制しています。
- CY20、さらにその先の市場の先行きは不透明ですが、中長期的な技術のロードマップからは、5GやHPC向けの高性能半導体のテスト市場の伸びが継続するものとみています。

## 中長期成長に向けた取り組み

### FY19に実施した重要施策

- コアビジネスの中でも成長期待の高いハイエンドSoCの事業基盤強化に向け、人的リソースを増強
- 中長期的な事業拡大を見据えた戦略を推進
  - SoC半導体向けシステムレベル・テスト・ソリューションの拡充と新規顧客開拓
  - 今後のハイエンド半導体テスト需要拡大に即し、高精度ICソケット/サーマル・コントロールユニットを事業ポートフォリオに追加
- 企業理念体系「The Advantest Way」の見直し、統合報告書の発行

### FY20重点施策

- 足元の環境変化に機動的に対応しつつ、長期的な成長に向けた投資を引き続き推進
- 半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化が無い中、重要顧客とのエンゲージメント強化/市場シェアの維持拡大策を進める
  - 5Gのミリ波領域やハイエンド・メモリでのシェア維持・拡大
  - 工場自動化対応など、総合的な品質向上提案によるパートナーシップの強化
- 気候変動への対応などESG経営の高度化

### ○ 中長期成長に向けた重点施策

- 中計2年目のFY19も、中長期の成長に向けた取り組みを行いました。
- コアビジネスの中でも成長期待の高いハイエンドSoC向けを中心に、昨年度に引き続き人的リソースを増強しました。また顧客との一層のエンゲージメント強化や、市場シェアの維持・拡大に取り組みました。
- 中長期の成長戦略として、SoC半導体向けシステムレベル・テスト事業の拡大策や、テスト周辺機器事業の強化を行いました。
- それから、「The Advantest Way」を見直し、当社のコアバリューを明確に定めたことで、会社の成長に向けたベクトルを改めて束ねることができたのではないかと思います。これによるグローバル・オペレーションの強化が、コロナウイルス下のヒトの移動制限にあっても、製品設置や顧客サポートの悪影響を最小限に抑えていると考えます。
- FY20については、足元の先行きは不透明ですが、顧客からのフィードバックでも半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化はありません。
- コロナウイルス問題に限らず、貿易摩擦や自然災害などリスク要因は増加の一途です。FY20は、これら環境変化に機動的に対応することはもちろんですが、長期的な成長に向けた投資は引き続き推進していくつもりです。
- 5Gのミリ波領域やハイエンド・メモリといった将来有望エリアでの、重要顧客とのエンゲージメント強化や市場シェア向上策を進めます。

## システムレベル・テスト事業の状況

### 当社のソリューション

- 過年度のM&A、およびオーガニックに蓄積した要素技術を結集し、モジュール/システム、メモリからSoCまで幅広くカバー可能

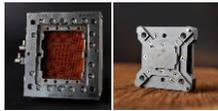
ハイエンドSoC用システムレベル・テスト



SSD用システムレベル・テスト



サーマル・コントロール・ユニット



ICソケット

### 事業機会と当社の強み

- ハイエンド半導体の性能向上、回路集積度の上昇、信頼性担保の重要度上昇の流れが継続
- それらを効率的に解決できる、システムレベル・テスト (SLT) に対する半導体メーカーの関心が高まる
- 類似ソリューションは計測器メーカーなどで既に存在するが、ノウハウの幅広さと性能面で差別化。SLTのデファクト・スタンダードの最短距離に当社はポジション
- ストレージだけでなく、HPC、通信モジュール、車載モジュール向けに特に強い引き合い
- Essai社に対するM&Aは、SLTビジネスにおいて差別化をさらに進めるために企図

### ○ システムレベル・テスト事業の状況

- 先ほどから何度か触れているシステムレベル・テスト事業ですが、その現状をここでおさらいします。
- 当社で蓄積した要素技術とM&Aで獲得したリソースを結集し、メモリからSoCまで、そして半導体を組み込んだモジュールやシステムの機能試験を効率的に行うものです。
- 今このシステムレベル・テストが半導体メーカーから関心を集めている理由は、ハイエンド半導体の性能向上、回路集積度の上昇、信頼性担保の重要度上昇が契機となっています。
- 類似ソリューションは顧客内製や計測器メーカーなどで既に存在するわけですが、ノウハウの幅広さと性能の差で、当社は差別化を図り、伸ばしていきたいと考えています。

## 半導体テスト市場の動向 <20年4月時点の見方>

### CY19実績

- 米中貿易摩擦激化に端を発した半導体市場の減速に見舞われたが、5G向け半導体への活発なテスト投資がSoCテスト市場の成長を牽引
- メモリ・テスト市場も、メモリ需給改善や中国企業の量産投資に支えられ、後半持ち直し

### CY20予想

- ハイエンドな半導体採用を必須とする5Gやデータセンター向けのテスト需要は底堅く、暦年20年前半までは一定の需要が持続する見通し
- 一方でコロナウイルスの影響により、自動車・産機向け、ディスプレイ向け、モバイル向けで今後のテスト需要の不透明感が増しており、市場予測は現在見直し中

### ○ テスタ市場の見方

- 例年は1年間のテスト市場の見方を出していますが、今回は現在の見方をお話しします。
- CY19のテスト市場は、CY18からは落ちましたが、5G関連の需要は強く、またデータセンター向けでDRAM、NANDフラッシュのテスト需要が尻上がりに回復しました。
- 半導体の高性能化と複雑化がテスト需要を喚起する市場構造は不変とみています。ハイエンドな半導体採用を必須とする5Gスマートフォンやデータセンター向けのテスト需要は底堅く、暦年20年前半までは一定の需要が持続する見通しです。
- ただコロナウイルスの影響で、自動車、産機、ディスプレイ、モバイルと、広い範囲でテスト需要の先行きが不透明感を増しています。CY20の市場予想は現在改めて見直し中です。

# 新型コロナウイルス感染拡大の当社への影響と対応

## 当社事業上の主なリスク

- 従業員等の感染による事業活動の中断と効率低下
- 世界各地の移動制限や都市封鎖が長期化することによる、製品・サービス供給能力の低下
  - 自社および委託先での製造人員確保難
  - 顧客サポート能力の低下
  - サプライチェーン寸断による部材調達難
- 世界経済の急激な悪化による最終需要減とエレクトロニクス業界全体への波及、半導体市場および半導体製造装置市場の減速
- ポストコロナ時における中長期的な市場変化の可能性
  - 顧客のサプライチェーン変動による半導体産業の構造変化
  - 人間の行動および社会の変化がもたらす事業環境の変容

## 当社の対応

- ステークホルダーの健康維持への配慮として、リモートワークにより顧客・サプライヤー・自社従業員の罹患リスクを低減
- 移動制限や都市封鎖の影響を軽減するため、生産地代替を推進し当社製品の供給能力とサポート能力を維持
- サプライチェーン混乱リスクを考慮した部材確保、中長期的BCPの再検討
- 顧客との情報交換を密に行い需要動向をモニタリング
- 中長期的には顧客のサプライチェーン変動や産業構造の変化にも留意

## ○ 新型コロナウイルス感染拡大の当社への影響と対応

- コロナウイルスの当社事業へのリスクを整理します。
- まず直近では自社のみならずサプライヤー、顧客も含め感染が発生し、事業活動が停滞するリスクが挙げられます。
- 各国でレベルは違いますが移動制限や都市封鎖を行っており、生産体制は大きく制約を受けています。また、エンジニアを自由に移動させられないことによるサポート能力の低下もあります。そして世界中のサプライチェーンが寸断されており、部材確保問題はすでに発生しています。
- まずは供給側での問題が先行しますが、世界経済の急激な悪化は、やがては半導体市場と半導体製造装置市場にも影響するのは明らかです。需要側でどの程度の影響があるかはまだ、現段階では推測困難です。
- これらのリスクに対する当社の対応ですが、まず、事業継続性と従業員の罹患リスク低減の観点から、1月以降、人的移動の禁止とリモートワークへの切替をグローバルに順次実施してまいりました。これはステークホルダーの健康維持の観点から、当面継続します。
- 移動制限の影響については、生産面で一部の国で制約を受けていますが、操業低下を他国で補ったりして、今は大きな支障と見ていません。各国では半導体事業をエッセンシャルビジネスとして操業する方向で扱うと考えています。顧客サポートについても当社はローカルでのサポート力を充実させていますので、大きな問題はないと考えています。
- 従って、当社に一番のリスクは足元では部材調達面です。前期までは大きな問題は回避できましたが、1Qから一部の部品に課題が見えており、その対応を現在行っています。
- 需要面の影響についてはコロナウイルス問題の深さと長さが読み切れず、注意深くモニターし、機動的に対応するしかありません。顧客との情報交換を密にしています。
- 最後に、コロナ後においては世界的なサプライチェーンの見直し、再構築が進むと考えられます。当社のBCPの見直しはもちろんですが、コロナウイルスが世界をどう変えるかはビジネス展開上の機会にも脅威にもなりうるもので、注意を要すると考えています。

## FY20業績予想

	FY19				FY20
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q予想
受注高	659	583	729	907	620
売上高	662	716	699	682	700
営業利益	152	177	142	116	130
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	18.6%
税引前四半期利益	152	177	142	108	130
四半期利益	121	147	119	148	105
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.0%
事業譲受、M&Aに伴う 受注残の増加				+42	
受注残	746	613	643	910	830
為替レート*	1米ドル 1ユーロ	111円 125円	108円 121円	108円 119円	110円 121円

\*為替レートの変動が今後の営業利益に与える年間ベースでの影響度予測は、対米ドルが1円高時マイナス6億円です。対ユーロはプラス1.5億円です。

### ○ 2020年第1四半期の業績予想

- これまでのところ半導体設備投資動向に大きな変動は見受けられませんが、今後の世界経済の変化に伴って、半導体市場や半導体製造装置市場がどのように推移していくかは現時点で予測しがたく、2020年度通期の当社業績を予想することもまた、困難な状況にあります。
- そうした中、今回は見通しの効く範囲として、1Qのみの業績予想とさせていただきます。
- 1Qは、受注高620億円、売上高700億円、営業利益130億円、税引前利益130億円、当期利益105億円と予想しています。予想の前提とした為替レートは、米ドルが105円、ユーロが120円です。
- コロナウイルスの影響は今見える範囲で織り込んでいますが、状況変化が激しいことが予想され、参考数値とお考えいただきたい。上振れもあれば、下振れもあります。
- 事業別には、4Qと比べると、売上はSoCとメカトロは「やや減」となる方向で、メモリとサービス他は伸びる方向で見えています。
- 1月時点では最高売上を狙う年にしたいと考えていましたが、世界経済の不確実性が高い今、当社は、外部環境の変化に機動的に対応することを、2020年度の最優先課題としていきます。

## サマリー

- 新型コロナウイルスによる世界経済の悪化と混乱が始まっているが、主要顧客は投資を継続中
- 不透明感が強まる中、環境変化に機動的に対応することが重要
- 中長期的な半導体の進化の方向性は不変。中長期経営方針を堅持し、将来投資を継続
- 5G/HPC、メモリといったハイエンド品のテスト需要は今後も成長。これら分野におけるリードを維持し、市場シェアの維持・向上を図る

### ○ サマリー

- 新型コロナウイルスへの懸念が多々生じていますが、4Q受注に見える通り、今のところ当社の主要顧客である大手半導体メーカーは投資継続の姿勢を変えていません。当社の顧客は財務基盤が強く、ポストコロナ時を見据えて、優位性確保のための投資を継続していると考えています。
- しかしながら世界経済の悪化が半導体関連市場にも変化をもたらすことは明らかで、本年度は環境変化を注意深くウオッチし、機動的に対応することを最優先として経営していきます。
- そうした中、中長期的な半導体の進化の方向性は不変と考えており、オーガニックな努力とM&Aで得たリソースを融合し、引き続き中長期経営方針の具体化を進めます。
- 5G/HPC、メモリといった、ハイエンド品のテスト需要は、今後も拡大します。これら分野におけるリードを確保し、現状の市場シェアの維持・向上につなげたいと考えています。